

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	横浜市長津田保育園（2回目受審）
経営主体(法人等)	横浜市
対象サービス	児童分野（認可保育所）
事業所住所等	〒226-0027 神奈川県横浜市緑区長津田2-11-1
設立年月日	昭和40年7月1日
評価実施期間	平成27年 10月 ～ 平成28年 3月
公表年月	平成28年 3月
評価機関名	株式会社フィールズ
評価項目	横浜市版（保育分野（保育所））
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p>[施設の概要]</p> <p>横浜市長津田保育園はJR線長津田駅北口から徒歩5分程の所にある公立保育園です。駅にも近い住宅地にあり、近隣には長津田公園、恩田川や周辺の田園地帯も近くにあります。</p> <p>定員は生後6ヶ月から5歳までの95名、6クラスで、延長保育、一時保育、障がい児保育も行っています。</p> <p>保育理念は「すべての子どもたちが、自分を『かけがいのない存在』と感じ自身を持って生きていかれるように環境を整え、適切な援助をする」です。保育方針「心身ともに豊かに育ちあう保育」のもと、子どもたちが様々な活動を通して、異年齢や地域の人々と関わりながら生活しています。また、地域の方々の協力を得て、子どもたちは様々な体験をして世界を広げています。横浜市緑区の子育て支援センター園の1つとして、地域の子育て支援事業にも力を入れています。</p> <p>≪優れている点≫</p> <p><u>1. 職員全員が研鑽を重ね、チームとして保育のレベルアップに取り組んでいます</u></p> <p>常勤職員の人材育成のために横浜市では独自の人事考課制度を確立しており、職員は年度初めに目標共有シート作成をして、目標に向けて取り組むことで資質の向上に努めています。園では新採用職員に対して園の独自のフォーマット「新採用保育士育成計画（4期）」や横浜市のトレーナー制度を活用し、より丁寧な人材育成を行っています。園では、園目標「いきいきと生きる子」「心の豊かな子」の実現を目指し職員全員が保育に取り組んでいます。園内に複数のコミュニケーションボックスや食育ボードを設置して、情報提供を多くして保護者との絆を深めています。</p> <p>園内研修「異職種間実地研修」では、保育士が調理担当と一緒に給食を作って、調理担当と保育士の連携をおこないました。朝・夕担当の職員が日中の保育につく体験により、日中の子どもの動きを迎える保護者に状況を伝えることができるようになりました。クラス担任以外の職員が保育室内環境を観察し、意見を出し合って改善につなげる試みも効果を生んでいます。これらの取り組みは全職員のモチベーションを向上させ、チーム「長津田」として団結し、保育の向上につなげています。</p> <p><u>2. 園の特色ある取り組みで、子どもたちが自由でのびのびとしています</u></p>	

園は子どもが様々な絵本に接することが大切と考えています。絵本との出会いが心の栄養となるよう、絵本コーナーには興味に応じて絵本を選べるように揃え、好きな時に読めるようにしています。家に持ち帰る絵本を選んでバックに詰める子どもたちの楽しそうな様子を見ることができます。

保育士は、子どもたちの造形活動の作品掲示にも工夫を加え、保護者と子どもが作品を介して会話が弾むようにしています。食育計画は「丈夫な体づくり」や「人とのつながり」を目標に、年間を通して年齢別にねらいを定めて実践しています。テーマを持った栽培活動と調理保育で、子どもたちは野菜本来のおいしさを、五感を使って味わう体験をしています。食前食後の挨拶、食事の時の姿勢や配膳、3色食材ボードを使って栄養素についても学んでいます。日本の伝統行事と食との関係を話し、興味を持って聞くようになっています。

園は一年を通して多くの行事を行っています。行事は日ごろの保育の延長として考えています。5歳児はリズム運動の前にホールを雑巾がけして、ホールがピカピカだと気持ちが良いということを体で感じています。「おたのしみかい」では親しんでいる絵本から劇遊びに発展させ、劇ではクラスの仲間と練習を重ねやりとげる喜びが育っています。自由でのびのびとした園生活から、子どもたちは興味を広げ、大きく成長することに繋がっています。

3. 創立50年の経験を大切に、子どもたちの安全と安心を第一にした運営につなげています

平成26年に創立50周年を迎えた園は、2つのハートで命の重なりを表現し、絆をイメージしたロゴマークを作りました。子どもたちは「園の50歳お誕生日」と言いながら園歌「たのしいながつたほいくえん」をきれいな声で歌っており、いつまでも歌い続けていくことにしています。

子どもたちの安全と安心を第一に考え、職員全員で事故、ケガの予防・再発防止策を共有しています。外部の講師からリスクマネジメントに関してアドバイスを貰い、事故報告書とヒヤリハット報告を集計し、組織として事故を未然に防いでいます。健康管理、衛生管理や安全管理のマニュアルを、職員全員で見直し、最新版の読み合わせを行っています。

安全管理では緊急対応フォロー図も場面ごとに完備し、警察署や消防署、警備会社への緊急通報装置を設置して、その活用を確認しています。不審者への対応では、不審者の判断基準、通報のタイミング、合図などシナリオを作って訓練しています。想定シーンに沿った冷静な判断と行動が取れるようにしています。子どもの安全を確保する体制を整え、職員全員に徹底しています。

4. 多彩な子育て支援事業を展開し、地域の子育て家族を支援しています

地域との深い絆づくりに力を入れており、地域の子育て中の家庭を応援する保育園として長く活動を続けています。横浜市の子育てセンター園として「地域交流マニュアル」に基づき、事業を主催しています。交流保育は年27回計画して、「ひまわり誕生会」は参加人数に制限を設けていません。2歳児との交流「グリーンカーテンの下で」、4歳児との交流「ミニうんどうかい」などを実施しています。

育児講座も年20回実施しており、そのうち3回は交流保育と育児講座を同時に行っています。育児講座のテーマにも「パパと遊ぼう」「離乳食でおしゃべりタイム」などが好評なことから、兄弟姉妹のいるお子さんと保護者の「おしゃべりタイム」も開催しています。

専門講師を招いて毎月連続して行う「おもちゃで遊ぼう」は年齢、人数の制限を設けず、広く地域の方から支持されています。地域の親子参加型事業「イベントみどりっこまつり」では、職員が出向いて相談を受けており、地域の子育て世代への情報提供に役割を果たしています。様々な企画が参加希望の親子に判りやすく、参加しやすいような情報発信であり、多くの事業は広報に案内されると、直ぐに申し込まれる方が多く、地域支援の実績になっています。

《改善することが期待される事項》

1. 「苦情関係書類」ファイルの活用

保護者からの要望や苦情に対しては、担任が保育日誌に記録しています。さらにその日のうちに園長に報告し、他の職員にはミーティングでの周知や職員会議で報告、検討しています。過去の苦情・トラブルは保育日誌や会議録などに記録として残していましたが、最終的に「苦情関係書類」ファイルにまとめ今後活かすこととしています。記録を継続してファイルし、蓄積・管理を行い、このデータを分析・活用することが今後期待されます。

2. 保育内容の特徴を再度認識して、保護者等に伝えていく工夫

園は優れている点や工夫している点が多くあります。特徴を持った活動として、食育や異年齢交流、リズムや体操指導、絵本の取り組みなど様々な取り組みを行なっています。それらは子どもたちの心身の発達を促しています。今年度からは園だよりに写真を掲載し、懇談会では日頃の保育を写真で紹介するなどして可視化に取り組んでいますが、保護者の理解は十分とは言えません。保護者へのアンケート実施時の回収率も高くありません。しかし、アンケート回答者からの園に対する満足度は良い状況です。園が実践する保育の特色や強みを保護者が共有して、多くの保護者から意見が寄せられ園に協力するような工夫が期待されます。

評価領域ごとの特記事項

<p>1.人権の尊重</p>	<p>保育理念、保育方針に基づき、「子どもにとって必要なことを第一に考え柔軟に対応していきます」を主旨とした 4 項目からなる保育姿勢と園目標「いきいきといきる子」「心の豊かな子」を掲げています。それらはすべて子どもを尊重したものになっています。</p> <p>保育士が子どもに話しかける際には穏やかで分かりやすい言葉を選ぶように心掛け、声のトーンにも気を配っています。座った状態で子どもの目線の位置で話すことを申し合わせています。グループ分けやゲームのチーム分け、順番などを男女で分けることはせず、無意識に性差による固定観念で保育していないか、職員同士で声をかけ合っています。</p> <p>児童票等の個人情報が含まれる書類は鍵のかかる書庫に保管しています。書類をクラスに置く場合も、鍵付きの引き出し等に入れ、持出し禁止も職員間で徹底しています。園が撮影した写真等を公開する際には保護者の了解を得ています。連絡帳や保護者宛の配布物をウォールポケットに入れる時はダブルチェックしクリップ止めしており、個人情報に関する書類は個人用の封筒に入れて渡しています。</p> <p>職員は児童虐待に関する研修を受けています。気になる場合はマニュアルの発見のポイントに照らし合わせてチェックをしています。虐待が明白になった場合や疑われる場合は、緑区こども家庭支援課、緑区福祉保健センター、横浜北部児童相談所に相談するようにしています。職員は保護者の置かれている状況や状態を理解し、こまめに声をかけるようにして見守りを続け、必要な場合は緑区の保健師と連携して対応しています。</p>
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<p>子どもたちが自主的に遊べるように年齢に合った玩具を用意しています。乳児用の玩具は大きさに配慮し、舐めても害のない物を用意しています。教材も豊富に用意し、絵本も表紙が見えるように置いています。園庭を囲むように 0 歳児から 5 歳児までの保育室があり、どの部屋からも園庭に出ることができる環境です。</p> <p>0、1 歳児は特にスキンシップを大切にしています。幼児クラスは、成長に合ったコーナーを設けており、多種類の図鑑や地図を用意し知的な好奇心を満足できる環</p>

	<p>境を整えています。子どもを主体とした保育に力を入れており、自由な発想を大切に、掲示物や壁面装飾、収納方法などにも配慮しています。</p> <p>仲よしグループ活動は、3、4、5歳児3名がグループを組んで、好きなコーナー遊び、ごっこ遊びや行事を一緒にする異年齢児保育活動を行っています。食事の大切さに気付き、楽しく、美味しく食べることを目標に、年間の食育計画に沿って、保育士と調理担当が連携して園独自の食育にも積極的に取り組んでいます。</p> <p>午睡では、子どもの年齢や体調、生活リズムに配慮しながら十分な休息が取れるように配慮しています。トイレトレーニングについても、子どもの発達状況に合わせて柔軟に取り組んでいます。基本的には行きたくなくなった時にいける環境を作っています。個人差の多い時期となるため、園での取り組みが理解しやすいように保護者に丁寧に説明し、それぞれの家庭の価値観を尊重した対応を取っています。</p>
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<p>保育課程は、年齢ごとの発達に一貫性があるか、保護者の状況、地域の環境に即しているかなどに着目し、常勤職員で毎年見直しをしています。非常勤職員の意見や、子どもの現在の姿に合わせたものになるようにしています。今年度、第三者評価受審にあたり、保育課程を再度見直し、保育姿勢に「保護者の思いに添いながら、子育ての喜びを共感していきます」の文言と家庭との連携、食育の項目を追加しました。</p> <p>計画的の保育に取り組む指針として「年間食育計画」「異年齢年間交流計画」「リズムカリキュラム」「太鼓交流計画」などを作成し、年齢別、期ごとのねらいを定めて取り組んでいます。それらの内容は「保育の柱」としてまとめ、保護者に周知し理解を求めています。また、入園説明会や年度初めのクラス懇談会での説明のほか、各保育室のファイルに入れ保護者がいつでも閲覧できるようにしています。</p> <p>入園前の親子面接では、年齢別面談用紙を用いて成育歴や家庭状況などの聞き取り、提出書類で得た情報や面談時の所感記録を日々の保育に反映させており、園生活を無理なく始められるようにしています。児童票など保護者からの提出書類はファイルし、全職員が日々の保育上、必要に応じて確認できるようにしているほか、職員会議、乳児会議、幼児会議では、配慮の必要な子どもや保護者の情報などを報告しあっています。</p> <p>毎月の園だよりには園長からの言葉に加え、行事予定、お知らせとお願い等の他、長時間保育の様子、エピソードを掲載しています。年度末に園の自己評価として家族アンケートの他、行事後アンケート、園内3か所に設置したコミュニケーションボックスで保護者の意見を聞いています。クラスごとに期間を決めて個人面談を実施しています。保育参加についても期間を設けず随時受け付けています。保護者の相談には守秘義務にも十分配慮しています。</p>
<p>4.地域との交流・連携</p>	<p>横浜市の子育てセンター園として「地域交流マニュアル」に基づき、園はさまざまな事業を主催しています。交流保育は年27回計画しており、人数の制限を設けていない「ひまわり誕生会」や4歳児との交流「ミニうんどうかい」などは好評で、11月からは1歳児も、1月からは0歳児も参加しています。育児講座も年20回実施しており、そのうち3回は交流保育と育児を同時に行う企画として7月は笹飾り、2月の鬼のお面、3月のひな人形を園児と一緒に作っています。参加希望者数は回を追うごとに増えています。</p>

	<p>育児講座のテーマに工夫を重ね「パパと遊ぼう」「手作りおもちゃの日」「離乳食でおしゃべりタイム」が好評なことから今年は、兄弟姉妹のいるお子さんと保護者10組がホールに集まる「おしゃべりタイム」を開催しました。更に専門講師を招いて毎月連続しておこなう「おもちゃで遊ぼう」は年齢、人数の制限を設けず行っており、広く地域の方から支持されています。参加しやすいように、年間予定表を作成して配布し、詳細をポスターやチラシにして掲示しています。</p> <p>子育て支援事業の実施後は参加者にアンケートをお願いし、地域や子育て世代のニーズや意見・希望の把握に努めています。把握したニーズは職員会議やミーティングで話し合い、次回の企画に活かしています。地域は古くから住み続けている高齢家族と、交通の便の良さから都心で働く若い夫婦が住んでおり、園は子育て家庭のニーズの把握に積極的です。</p> <p>地域との深い絆づくりに力を入れています。地域子育て支援の拠点に園長、保育士が出向き出前保育を実施しています。地域の親子参加型「イベントみどりっこまつり」では体操コーナーや相談ブースを設け、育児教室（赤ちゃんひろば）にも職員が出向いて相談を受けており、地域の子育て世代への情報提供に大きな役割を果たしています。園長と職員が要保護児童対策協議会に参加し、虐待防止の検討や意見交換をしています。</p>
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<p>横浜市の職員として守るべき事項が記載されている「職員行動基準」を配付しています。横浜市や緑区の園長会議やコンプライアンスの研修で知り得た不正、不適切な事案などを職員会議で周知、職員全体で再発防止に取り組む体制を作り、自園のルールを再確認しながら職員のモラルアップを図っています。</p> <p>横浜市や緑区のホームページで運営内容を公開しています。事業運営に関する情報は、横浜市、緑区の会議、研修などを通じて提供があります。関係機関との連携の中でも地域の情報や専門機関の情報収集ができており、区内公立保育園間で共有しながら取り組んでいます。重要課題は、全職員の意見が反映されるように、乳児会議、幼児会議、福祉員会議、アルバイト会議で検討し、職員会議で決定することとしています。決定事項も同様に小単位の会議で伝え周知できるようにしており、園全体で取り組む体制を整えています。</p> <p>横浜市对环境に対する考えに則り、保育に影響が起きない範囲で、節水、節電に取り組んでいます。子どもたちは、資源循環局職員からゴミの分別について学ぶ機会を持ちました。公園の清掃活動で環境に配慮する意識を持てるようにしています。保護者や地域の人々に衣服を中心として寄付を募り、年に2回フリーマーケットを開催しています。園の敷地内の数か所にグリーンカーテンを作っており、段ボール、牛乳パックや空き容器の廃材を工作などに使っています。</p>
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<p>横浜市の人事異動で必要な人材は補充しています。常勤職員の人材育成のために横浜市では独自の人事考課制度を確立しており、人事考課制度により、職員は年度初めに目標共有シート作成をし、資質の向上に努めています。園長は年3回個人面接を行い、取り組み状況を詳しく確認し、助言を与えています。特に新採用職員に対しては園の独自のフォーマット「新採用保育士育成計画（4期）」や横浜市のトレーナー制度を活用し、より丁寧な人材育成を行っています。</p> <p>職員の職位に合った研修や要望に沿った研修が受けられるように園長や園長代行保育士が研修計画を作成しています。ミーティングでは外部研修を受講した職員の</p>

伝達研修を実施し、研修報告書を回覧しています。今年度は園内研修「異職種間実地研修」に取り組み、保育士が調理を担当したり、朝・夕の保育担当職員が日中の時間帯を経験し、役割の再認識や相互協力体制強化に効果をあげました。クラス担任以外の職員が保育室内環境を観察し、意見交換から最適な保育環境の設定をめざす研修も、職員のモチベーションの向上とチームワーク強化につながっています。

嘱託職員は常勤職員と同様に職員会議、カリキュラム会議などに出席しています。アルバイト職員は月に1～2回程度アルバイト会議を行っています。非常勤職員(アルバイト含む)の指導担当は園長で、園長代行保育士がサポートしています。アルバイト職員も障がいのある子ども、配慮を必要とする子どもの研修を受け、必要な知識・技術を習得できるように配慮しています。